

Form A 書類 A

申請書及び申請書・現地審査チェックリスト

コラム 1	コラム 2
コミュニティ記載欄	審査員記載欄
セクション A コミュニティの概要	
<p>A.1 簡潔にコミュニティ及びその歴史的発展について記載すること</p> <p>厚木市は、神奈川県中央に位置し、相模川の右岸に開けた扇形の地形で、西北部には丹沢山地が連なり、豊かな自然に恵まれています。</p> <p>また、400年以上前から、宿場町、産業、生産物の交易の場として発達し、その交通の要衝という地理的な優位性から首都圏における流通・業務機能を担う拠点都市として成長してきました。</p> <p>1955年2月1日、1町4か村の合併により厚木市が誕生し、その後、3村を編入し今日に至っています。現在では、商業地、住宅地、大企業の研究所や大学を抱える活気あるまちであり、伝統的に日本独特の自治会組織が良好なコミュニティを創りだしている地域でもあります。</p> <p>(詳細は「補足資料1 厚木市の概要」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>A.2 安全に関する全体的な方策、抱負・目標、コミュニティの取組みについて記載すること</p> <p>厚木市では、2008年を「市民協働元年」と位置付け、市民協働による安心・安全なまちづくりを推進しています。</p> <p>2009年度から2020年度までの厚木市のまちづくりの計画を定めた第9次厚木市総合計画においては、「セーフコミュニティ（以下、「SC」という。）の推進」を基本施策として位置付け、市民との協働による安心・安全なまちづくりを進めています。</p> <p>また、SC認証後（2012年10月）には、国内初となる「SC推進条例」を制定し、市全体でのSC活動の継続的かつ計画的な推進を図っています。</p> <p>(詳細は「補足資料2 総合計画及び条例制定」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>A.3 首長（および同等の立場）及び執行委員会はどのように関わっているか？だれが、分野横断的なグループをまとめているか。</p> <p>市内の様々な団体の代表者で組織するSC活動の推進母体「厚木市SC推進協議会」の会長を厚木市長が務め、市内</p>	<p>記述は十分か？</p> <p>首長は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p>

<p>の SC 活動を管理、推進しています。</p> <p>なお日本は、政治のしくみが欧米とは異なるため執行委員会と同様の組織は設置されていませんが、市民の代表者である議会が SC の取組を理解し、その推進を支援しています。</p> <p>また、分野横断的な取組をまとめる存在として、組織を越えた協働については SC 推進協議会が、行政内の協働に関しては、危機管理部 SC 推進課が調整しています。</p> <p>(詳細は「補足資料3 セーフコミュニティ推進体制」参照)</p>	<p>実行委員会は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>どこが分野横断的なグループをまとめているか？</p>
<p>A.4 コミュニティにおけるリスクの概観を示す</p> <p>人口動態統計や救急搬送データ、警察統計、外傷発生調査などの事故やけがのデータの分析結果から、安心安全について「8つの重点課題」が明らかになりました。</p> <p>1 暴力・自殺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外的要因による死亡原因で最も多いのは自殺である 【2006～2013年の外的要因による死亡者合計914人のうち383人が自殺による死亡（全体の42%）】 ・年齢層別の外傷による死亡原因をみると、20歳から69歳までの各年代において自殺が1位となっている。 <p>2 交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数（人口10万人対）は、SC取組開始前の2008年と2014年を比較すると38.4%減少しているものの、依然として多い 【2008年778件⇒2014年479件 38.4%減少】 ・交通事故による救急搬送は、外的要因による救急搬送の43.3%を占める 【2006～2014年の外的要因による救急搬送人数14,761人のうち6,396人が交通事故（全体の43%）】 <p>3 自転車生活の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故件数（人口10万人対）は、SC取組開始前の2008年と2014年を比較すると39.4%減少しているものの、依然として多い。 【2008年180件⇒2014年109件 39.4%減少】 ・自転車事故は、交通事故全体に占める割合が高い。 【2006～2014年の交通事故件数13,886件のうち3,148件が自転車事故（全体の22.7%）】 <p>4 体感治安と公共の場の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑法犯認知件数（人口10万人対）は、SC取組開始前の2008年と2014年を比較すると43.0%減少しているもの、 	<p>リスクの外観は十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

国や県と比較すると依然として多い

【2008年 1,866件 ⇒ 2014年 1,063件 43.0%減少】

- ・市民の体感治安不安感は、回復傾向にあるものの依然として高い。SC認証取得前の2008年と2014年を比較すると「良くなった」が横ばい、「悪くなった」が大幅に減少

【良くなったと回答した割合 2009年 10.8% ⇒ 2014年 13.1% 2.3ポイント増加

悪くなったと回答した割合 2009年 27.2% ⇒ 2014年 15.9% 11.3ポイント減少】

5 高齢者の安全

- ・2000年に10.1%だった高齢化率が、2008年には15.7%を超え、2014年には21.1%になり、年々増加している。
- ・高齢者の外的要因による救急搬送人数(人口10万人対)は、SC取組開始当時の2008年と2014年を比較すると13.4%増加しており、他の年代と比較しても割合が高い

【2008年 1,842人 ⇒ 2014年 2,088人 13.4%増加】

6 子どもの安全

- ・子どもの外的要因による救急搬送は、0～6歳は一般負傷が多く、7～19歳は交通事故が多い

【2006～2014年の0～6歳の救急搬送人数 1,573人のうち1,213人が一般負傷(全体の77.1%)、7～19歳の救急搬送人数 3,698人のうち2,355人が交通事故(全体の63.7%)】

- ・18歳以下に係る虐待相談件数は、2012年と2014年を比較すると98.7%増加している。

特に、0歳から就学前児童は、全体の70%を占めている。

【2012年 77件 ⇒ 2014年 153件 98.7%増加】

7 職場(労働)の安全

- ・労働災害発生件数は、SC取組開始前の2008年と2013年を比較すると8.6%減少しているものの、国や県と比較すると依然として多い

【2008年 301人 ⇒ 2013年 275件 8.6%減少】

8 防災対策

- ・世界で起こっている地震(マグニチュード6以上)の約20%が日本で発生
- ・厚木市に影響を与える可能性がある東海地震(マグニチュード8)の今後30年以内の発生確率は88%、同じく東京湾北部地震(マグニチュード7.3)は70%と非常に高い

(詳細は「補足資料4 外傷リスクの概要」参照)

セクションB コミュニティの構造	
<p>B.1. 人口動態構造について説明する</p> <p>2015年1月1日現在の厚木市の人口は、225,133人（男：117,050人、女：108,083人）であり、神奈川県下でも比較的若い年齢層の割合が高い都市です。人口の推移を見ると、ここ10年横ばいの状態ながらも2009年以降、緩やかな減少傾向に転じており、厚木市でも日本社会全体で見られる人口減少局面に移行している状況にあります。</p> <p>2015年現在、65歳以上の高齢者が全人口に占める割合は22.2%（50,056人）ですが、2020年には25.6%（58,880人）になると推計しており、高齢化が進んでいます。</p> <p>（詳細は「補足資料5 人口動態構造」参照）</p>	<p>人口動態構造とリスクについて十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.2. 現在の安全向上・傷害予防（の取り組み）および今後の計画について説明する</p> <p>厚木市のまちづくりの基盤となる「第9次厚木市総合計画 ～厚木元気プラン～」では、安全に対する取組についてSCの推進を基本施策の1つとして位置づけ、長期的ビジョンの中で、市民や地域、行政等の関係者の連携・協働によりSC活動を継続的に推進することを明確にしています。</p> <p>この「第9次厚木市総合計画 ～厚木元気プラン～」は、2009年から2020年までの12年間のまちづくりの計画を定めたものです。</p> <p>また、具体的には、各対策委員会を中心に、重点課題を設定し、様々な関係機関と協働で、短期的、中期的、長期的な成果指標を定めて活動を展開しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.3 コミュニティの地方政治家による継続的な傷害予防への支援について記載する。また、プログラムのどのような部分がより大きな単位の地方政治によって担当・支援されているか</p> <p>厚木市長が「厚木市SC推進協議会」の会長として、市内のSC活動の管理、推進をしています。また、議会がSC活動を支援しています。</p> <p>さらに、国の機関である厚木労働基準監督署や県の管轄下である厚木警察署、厚木保健福祉事務所などの代表者がSC推進協議会の委員やSC対策委員会、SC外傷サーベイランス委員会の委員として、厚木市のSC活動に携わっています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B.4 すでに策定された安全向上・傷害予防の取組を推進するための方策（戦略）について説明する</p> <p>厚木市では、厚木市のまちづくりの最上位計画である「第9次厚木市総合計画～厚木元気プラン～」に基づき、SCの推進を始め、交通安全や防犯などの生活安全の向上や総合防災力の充実、子育て環境の充実、高齢者福祉の充実、障がい者福祉の充実、健康・長寿社会の実現、地域コミュニティの充実等、安心安全に関わる様々な取組を行政計画に沿って推進しています。</p> <p>また、市民の皆様による地域活動も行政との連携のなかで活発に展開されています。（防犯パトロールなど）</p> <p>（詳細は「補足資料2 総合計画及び条例制定」参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.5 だれ（どこ）が安全向上・傷害予防プログラムの責任者か、そして地域の政治及び行政組織においてどこに位置しているか。</p> <p>責任者:厚木市長 小林 常良</p> <p>位置付け:厚木市の首長（行政及び政治のリーダー）であり、分野横断的組織である「厚木市 SC 推進協議会」の会長</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.6 安全向上・傷害予防プログラムをリードしているユニット（部署等）はどこか</p> <p>厚木市危機管理部 SC 推進課</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.7 セーフコミュニティは、継続的なプログラムかプロジェクトか？</p> <p>厚木市の SC 活動は、厚木市の重点施策と連動した継続的なプログラムです。2009年から2020年までの間の、厚木市のまちづくりの計画を定めた「総合計画」における位置づけと併せ、2012年には「厚木市 SC 推進条例」を制定し、厚木市における SC 活動を継続的に推進していくことを明文化しました。</p> <p>2010年の認証、2015年の再認証を経て、今後も5年毎の再認証を取得することで、SC活動を長期的に推進していきます。</p> <p>（詳細は「補足資料2 総合計画及び条例制定」参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B.8 全コミュニティをカバーしている地方政治家によって具体的な目標は設定されているか？それは、何か？</p> <p>2009年にスタートした厚木市のまちづくりの最上位計画である「第9次厚木市総合計画～厚木元気プラン～」において全市をカバーした目標が設定されています。</p> <p>○第9次厚木市総合計画で設定している目標</p> <p>「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」を将来都市像として、「基本政策・まちづくりの目標」を設定し、施策を展開</p> <p>《基本政策・まちづくりの目標》</p> <p>安心政策として、支え合い、安心していきいきと暮らせる元気なまちづくりを進める</p> <p>《分野・基本施策》</p> <p>安心・安全において、安心・安全な社会の実現のためセーフコミュニティを推進する</p> <p>(詳細は「補足資料2 総合計画及び条例」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.9 その目標を導入したのはだれか？</p> <p>厚木市長 小林 常良</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.10 どのようにそのSC目標は評価され、だれにその結果が報告されるか？</p> <p>安心・安全対策全般について、統計データ等を分析し5年ごとにその進捗状況を評価しています。加えてSCを推進する中で、重点課題に基づいて設置された対策委員会の活動に対して、短期的、中期的、長期的な成果指標を定めています。</p> <p>短期的、中期的な評価については、各対策委員会が評価を行い、また、長期的な評価については、外傷サーベイランス委員会が分析をし、SC推進協議会に報告しています。また、SC推進協議会ではその報告を受け重点課題の解決に向けた対策が講じられているかを評価しています。</p> <p>また、分析、評価に当たっては、SC支援センター（日本SC推進機構）の指導、助言を得ています。</p> <p>(詳細は「補足資料6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録するプログラム」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B11. 安全向上のために経済的な動機は活用されているか？使われている場合は、どのように？</p> <p>1 SCプログラム導入時 厚木市では少子高齢化の進展により高齢化率が年々増加し、それに伴い、高齢者の外傷も年々増加しております。そのため、将来的な医療費や介護費用の増加を抑制するために、SCプログラムを導入しました。</p> <p>2 安全向上プログラム実施時 安全向上のために、実施するプログラムの中には、厚木市が経費の一部を負担し、取組の効果を高めているプログラムがあります。</p> <p>例1 自転車用ヘルメット購入の機会の拡大により、ヘルメットを着用する方を増やすため、購入費の一部を助成しています。</p> <p>例2 青色回転灯を搭載した車両によるパトロールでは、ガソリン代などのランニングコストが発生するが、その一部を助成することで、実施者の負担軽減を図り参加しやすい状況を整えています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B12.安全向上のための地域レベルでの規制（ルール）はあるか？ある場合は説明を。</p> <p>厚木市では、誰もが健康で安心して安全に暮らすことのできる良好な地域社会の実現に向けて、SCの理念に基づき安心・安全に関わる取組を進めることができるよう「厚木市SC推進条例」を国内で初めて制定しました。</p> <p>また、次のような、安全向上のための様々な条例（ルール）も制定しています。</p> <p>1 「セーフコミュニティ推進条例」 SCの理念に基づき、市民の役割、市の責務、基本計画の策定などを定めています。 この条例は、厚木市におけるSC活動の継続性の確保に寄与しています。</p> <p>2 「自転車安全利用促進条例」 SCの理念の下、幼児・児童の自転車乗用時のヘルメットの着用義務等、自転車の安全な利用に関する基本的な事項等を定めています。</p> <p>3 「客引き行為等防止条例」 本厚木駅周辺等における客引きやスカウト行為等を防止し、安心・安全な生活環境を確保することを目的に制定しています。</p> <p>(詳細は「補足資料2 総合計画及び条例制定」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

セクションC 【指標1】	
<p>1.1 安全向上・傷害予防プログラムの管理・調整・企画を担う分野横断的なグループについて述べよ。</p> <p>厚木市の SC 活動の推進主体として、安心・安全に関する活動に取り組んでいる組織や団体等の代表者等（69 団体 76 人）で構成する「厚木市 SC 推進協議会」を設置しています。会長は、厚木市長が務めています。また、重点テーマごとに対策委員会を設置しており、様々な組織・団体の代表者によって協働でプログラムの企画・実践・評価（短期・中期）及び管理を行っています。</p> <p>（詳細は「補足資料3 セーフコミュニティ推進体制」参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.2 当該地域の政府および保健分野はどのように安全向上・傷害予防において協働しているか述べよ。</p> <p>厚木市 SC 推進協議会の事務局については、厚木市危機管理部 SC 推進課が、各対策委員会の事務局については、庁内の関係課がそれぞれ担当しています。</p> <p>保健分野については、厚木市の健康医療課、健康づくり課、高齢福祉課、福祉総務課、障がい福祉課、介護保険課、市立病院などが各対策委員会の事務局や委員として参画し、情報の提供や対策の検討・実施など、取組を推進しています。</p> <p>また、神奈川県厚木保健福祉事務所が SC 推進協議会や対策委員会、外傷サーベイランス委員会の委員として参画しています。</p> <p>（詳細は「補足資料3 セーフコミュニティ推進体制」参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.3 赤十字、退職者組織、スポーツ組織、保護者学校組織などの NGO が安全向上・傷害予防に関わっているか</p> <p>厚木市 SC 推進協議会には、自治会や医師会、老人クラブ連合会、交通安全協会、防犯指導員連絡会、商工会議所、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成会連絡協議会等、各種地域の N P O 及び N G O 団体が参画しています。</p> <p>（詳細は「補足資料3 セーフコミュニティ推進体制」参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>1.4 一般市民にハイリスクの環境や状況について知らせる仕組みがあるか？</p> <p>ハイリスクな環境及び状況については、安心・安全に関わる団体、行政、対策委員会など様々な組織や団体が、様々な媒体を活用し周知を図っています。</p> <p>また、同時に、より多くの住民の SC への参画を促すため、次のような各種 SC 周知活動も併せて展開しています。</p> <p>1 研修会、講座等の開催 SC 及び安心・安全に関する研修会・講座などで、厚木市が設定しているハイリスクグループや実施している取組などについて周知しています。</p> <p>2 広報あつぎ SC の活動状況等を広報あつぎに掲載する際に、併せて周知を図っています。 具体的には、犯罪が多く発生している地区・場所の犯罪危険箇所や交通事故が多く発生している交差点等の交通危険場所などについて、時期を捉え周知を図っています。</p> <p>3 リーフレットの配布 SC の取組をまとめたリーフレットや外傷サーベイランス委員会が作成したリーフレットに、厚木市が設定しているハイリスクグループや実施している取組を掲載し、広く市民の皆様配布しています。</p> <p>4 ホームページによる周知啓発 1～3 の情報を厚木市のホームページに掲載し、広く周知を図っています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.5 どのように取組(work)が持続可能な方法で組織化(体系化)されているかを述べよ</p> <p>次の①～④の組織を規約のもと設置・運営し、それらの組織が役割に応じて相互に結びつくことにより、取組が機能的かつ持続的に推進されています。</p> <p>また、⑤は取組を外部から評価及びチェックする機関であり、⑥及び⑦は取組の持続性を確かなものにするためのしくみです。</p> <p>①厚木市 SC 推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SC 活動を推進するための推進母体 ・ 69 団体から 76 人を選出した組織 <p>市内の住民組織 40 団体 企業 2 団体 医療機関 7 団体 教育機関 13 団体 行政機関 9 団体</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

②SC 対策委員会

- ・市域の重点課題に対する検討・実施・評価

③サーベイランス委員会

- ・サーベイランスのしくみづくりや厚木市における課題の抽出、活動評価の検証を実施

④安心・安全 SC 推進地区

地域の実情に応じた方法で安心・安全に関わる取組を SC の手法を用い実施

⑤日本 SC 推進機構による定期的な支援及び外部評価の実施

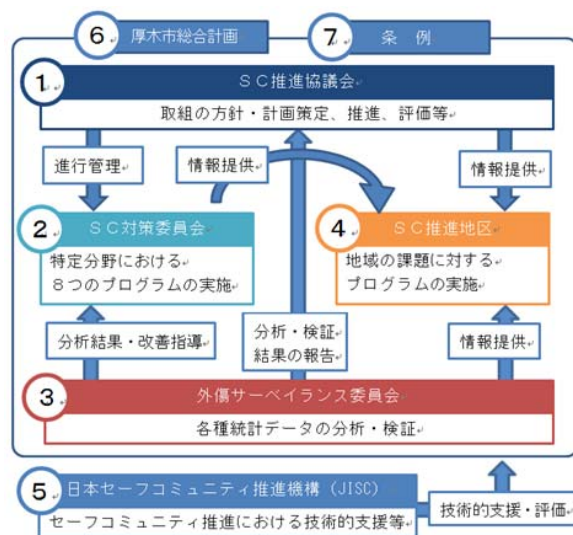
厚木市の SC の取組に対する指導や助言、評価等を SC 支援センターである日本セーフコミュニティ推進機構が実施

⑥第 9 次厚木市総合計画への位置づけ

SC の体制を継続するため、まちづくりにおける最上位計画である「第 9 次厚木市総合計画～厚木元気プラン～」に SC 活動の推進を位置づけ

⑦厚木市 SC 推進条例の制定

SC の取組の継続性を確保するため、2012 年 10 月 11 日に、SC 推進に特化した条例を制定



(詳細は「補足資料 3 セーフコミュニティ推進体制」参照)

セクションD 【指標2】	
<p>2.1 下記の領域における安全向上・傷害予防に関する継続的な取り組みについて記載すること。また、特定の NGO はじめ各分野がどのようにかかわっているかを述べよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.交通安全 2.家庭の安全および余暇時間の安全 3.子どもの安全 4.高齢者の安全 5.労働安全 6.暴力予防 7.自殺予防 8.防災および災害対策 9.公共（場）の安全 10.病院の安全 11.スポーツの安全 12.水の安全 13.学校の安全（セーフスクール） <p>これらのうち、コミュニティではなく、他の組織や機関によって担われているものはあるか？それについて、コミュニティはどのようにかかわっているか？</p> <p>厚木市では、従来から様々な安全対策を推進しています。</p> <p>中でも、行政は大きな役割を担っており、従来からかなりの部分をカバーしています。</p> <p>また、地域レベルでも様々な活動が展開されてきました。そのような中、SCを導入することで立場が異なる組織や団体が分野を超えて協働による取組を推進しています。</p> <p>厚木市においては、前述の1～13で示されている安全向上対策や外傷予防のプログラムを実施しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

領域		子ども (No.3) (0～14 歳)	青年 (15～24 歳)	成人 (25～64 歳)	高齢者 (No.4) (65 歳以上)
不慮の要因	家庭 (No.2)	8	7	10	8
	学校 (No.5. 13)	26	11	—	—
	職場・労働 (No.5. 9)	—	9	9	9
	余暇 (No.2. 9. 11. 12)	7	6	9	9
	交通 (No.1. 9)	17	16	14	10
意図的要因	暴力・犯罪 (No.6)	27	29	27	26
	自殺 (No.7)	5	8	8	8
その他	災害 (No.8)	16	16	17	17

※NO.10 病院の安全については、国が示す安全基準に基づき各病院が実施しています。

(詳細は「補足資料7 安心・安全に関わる取組」参照)

2.2 両性、全年齢層、全環境・状況に関する取り組みを記載すること。「転倒予防」などすべての取組について記載し、どのようにその取り組みが行われているかを述べよ

厚木市では、全ての性別、年齢、環境をカバーする取組を行っています。

(例) 領域：家庭 対象：子ども

①こんにちは赤ちゃん訪問事業

【対象者】新生児、新生児の保護者

【実施関係者】厚木医師会、市

【目的】新生児の外傷予防

【内容】生後4か月までのお子さんのいるすべての家庭を訪問し、健康状態の確認や育児に関する相談、子育て支援に関する情報提供と併せて、乳幼児に多い事故や状況などの情報を提供しています。

②危険予知トレーニング

【対象者】小学生、乳幼児、乳幼児の保護者

【実施関係者】児童館運営員会、市

【目的】小学生、新生児の外傷予防

【内容】日常の生活や活動の際にどのような危険が潜んでいるかを事前に予知することで、子どもたち

記述は十分か？

はい

いいえ

「いいえ」の場合、不十分な点は何か：

<p>の危険予知能力や危険回避能力を養う。</p> <p>トレーニングで使用する教材は、子どもが置かれている状況や環境を考慮し、子どもの外傷を専門に研究している団体との協働により厚木市が独自に作成しています。</p> <p>(詳細は「補足資料7 安心・安全に関わる取組」参照)</p>	
--	--

セクションE 【指標3】	
<p>3.1 全てのハイリスクにあるグループを把握し、安全を向上するためにどのような対策を講じたのかを述べよ。ハイリスクにあるグループとは、下記のようなグループがよく挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.先住民 2.低所得層 3.コミュニティ（職場を含む）における少数（マイノリティ）集団 4.犯罪被害や自傷を含む意図的要因による外傷のリスクにある人 5.虐待をうける女性・男性・子ども 6.精神的疾患、発達障害および他の障害を有する人 7.安全でないスポーツ、余暇活動に参加している人 8.ホームレス 9.自然災害において外傷のハイリスクにある人 10.特定の道路や交差点、水害被害想定地などハイリスクの環境の近くで生活したり働いたりしている人 11.宗教、民族および性的なし好等によりハイリスクにある人 <p>厚木市ではハイリスクグループとして、次のグループをハイリスクにある者として対策を講じています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 不審者発生遭遇事案の割合が高い小中学生女子 <ol style="list-style-type: none"> (1)愛の目運動 ※登下校時の児童の安全確保を図るための見守り運動 <p>【実施者関係者】 小学校PTA、老人会、青少年建材育成会等の地域の団体、地区市民センター、市</p> (2)かけこみポイント ※不審者による犯罪被害に巻き込まれそうな時などに逃げ込む緊急避難場所 <p>【実施者関係者】 小学校PTA、老人会、青少年建材育成会等の地域の団体、地区市民センター、市</p> 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>(3) ケータイ SOS ネット 【実施者関係者】 小中学校、小中学校 P T A、教育委員会、市</p> <p>(4) 防犯ブザー配布 【実施者関係者】 小学校、教育委員会</p> <p>(5) 危険予知トレーニング 【実施者関係者】 児童館運営委員会、市</p> <p>(6) 市立清水小学校及び睦合東中学校の ISS の取組 【実施者関係者】 すこやかネットワーク、清水小学校及び睦合東中学校の児童・生徒・PTA・教職員</p> <p>(7) 通学路の安全対策協議会 【実施者関係者】 市内小学校教職員、市内小学校 PTA、教育委員会、市</p> <p>(8) 青色回転灯搭載車を活用したパトロール 【実施者関係者】 自治会、各地区安心安全なまち会議、各種防犯団体、地区市民センター、対策委員会、市</p> <p>(9) 本厚木駅周辺パトロール 【実施者関係者】 自治会、各種防犯団体、企業ボランティア、学校ボランティア、厚木警察署、市</p> <p>(10) 街頭犯罪対策事業 【実施者関係者】 地区市民センター、市</p> <p>(11) 防犯灯設置事業及び照度アップ事業 【実施者関係者】 地域住民、自治会、地区市民センター、市</p> <p>(12) 地域安全マップ作成事業 【実施者関係者】 安心・安全 S C 推進地区、自治会、市</p> <p>2 自転車事故の発生割合が高い若年層（特に高校生）</p> <p>(1) 自転車マナーアップキャンペーン 【実施者関係者】 交通安全対策協議会構成機関・団体、神奈川中央交通（株）、厚木警察署、市</p> <p>(2) スケアード・ストレート教育技法による自転車安全教室 【実施者関係者】 交通安全対策協議会構成機関・団体、厚木警察署、市</p> <p>3 自殺による死亡者数の割合が高い 30～50 歳代の成人男性</p> <p>(1) こころの健康相談 【実施者関係者】 市</p>	
---	--

<p>(2) 自殺予防キャンペーン 【実施者関係者】 対策委員会、自殺対策庁内連絡会議</p> <p>(3) 自殺対策研修 【実施者関係者】 民生委員、対策委員会、市</p> <p>(4) メンタルヘルスシステム「こころの体温計」 【実施者関係者】 対策委員会、市</p> <p>4 交通事故の発生割合が高い高齢者</p> <p>(1) 高齢者交通安全教室 【実施者関係者】 厚木市交通安全対策協議会、神奈川中央交通(株)、厚木警察署、市</p> <p>(2) 自転車用ヘルメット購入費用助成事業 【実施者関係者】 小学校PTA、教育委員会、厚木市交通安全指導員協議会、厚木市交通安全母の会連絡協議会、市</p> <p>(3) 運転免許証自主返納の呼びかけ 【実施者関係者】 厚木市交通安全対策協議会、厚木警察署</p> <p>5 転倒によるけがの割合が高い高齢者</p> <p>(1) 運動器の機能向上事業 【実施者関係者】 厚木市老人クラブ連合会、地域包括支援センター、対策委員会、ボランティア、市</p> <p>(2) 転倒骨折予防教室（介護予防事業） 【実施者関係者】 厚木市老人クラブ連合会、地域包括支援センター、対策委員会、ボランティア、市</p> <p>(3) セーフティ住宅支援事業 【実施者関係者】 対策委員会、ボランティア、市</p> <p>(4) 高齢者バス割引乗車券（かなちゃん手形）購入費助成事業 【実施者関係者】 神奈川中央交通（株）、市</p> <p>(5) 転倒予防のための普及啓発活動 【実施者関係者】 厚木市老人クラブ連合会、地域包括支援センター、対策委員会、ボランティア、市</p> <p>(詳細は「補足資料 8 ハイリスクグループ」参照)</p>	
---	--

<p>3.2 ハイリスク環境の事例を挙げよ</p> <p>1.どのようにハイリスク環境を設定しているか述べよ</p> <p>2.優先的集団や環境について述べよ</p> <p>3.それらに対し、コミュニティでは特定のプログラムがあるか</p> <p>4.取組のタイムテーブルについて述べよ</p> <p>5.それらのグループは、それらの活動の予防的側面にかかわっているか</p> <p>1 警察統計及びアンケート調査の結果によると、本厚木駅周辺は犯罪発生率が高く、また、犯罪に対する不安感が高いことから、ハイリスク環境として設定しています。</p> <p>2 市民・本厚木駅利用者、本厚木駅周辺</p> <p>3 本厚木駅周辺パトロール【実施者関係者】自治会、各種防犯団体、企業・学校ボランティア、厚木警察署、市</p> <p>4 本厚木駅周辺パトロールは、本厚木駅周辺での犯罪の未然防止を図ることを目的に実施しています。より効果的で継続性を持った取組にするため、切れ間のないパトロールの実施に向け、様々な団体による協力体制を構築しています。</p> <p>5 本厚木駅周辺の住民、事業者が中心となりパトロールを実施しておりますが、厚木警察署や防犯に関係する機関・市民団体、市もパトロールの実施者として対策の企画・実践・評価を行っています。</p> <p>(詳細は「補足資料8 ハイリスクグループ」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
---	---

<p>セクションF【指標4】</p>	
<p>4.1 それぞれの年齢層、環境に対して行われた根拠に基づいた方策（戦略）/プログラムについて述べよ</p> <p>厚木市では、次のように、それぞれの年齢層、環境に対して根拠に基づいたプログラムを実施しています。</p> <p>1 交通安全</p> <p>(1) 高齢者交通安全教室</p> <p>(2) 自転車マナーアップキャンペーン</p> <p>(3) スケアード・ストレート教育技法による自転車安全教室</p> <p>(4) 交通安全教室</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>(5) 民間交通監視所</p> <p>2 自転車生活の安全</p> <p>(1) 自転車走行環境整備事業</p> <p>(2) 交通安全教室</p> <p>(3) ヘルメット着用運動</p> <p>(4) 自転車マナーアップキャンペーン</p> <p>(5) スケアード・ストレート教育技法による自転車安全教室</p> <p>3 体感治安と公共の場の安全</p> <p>(1) 本厚木駅周辺パトロール</p> <p>(2) 防犯灯設置・維持管理</p> <p>(3) 青色回転灯搭載車の地域パトロール</p> <p>4 子どもの安全</p> <p>(1) 危険予知トレーニング</p> <p>(2) 愛の目運動</p> <p>(3) かけこみポイント</p> <p>(4) ISS の取組</p> <p>(5) 子育てコンシェルジュの育成</p> <p>5 高齢者の安全</p> <p>(1) 転倒予防のための運動活動 (運動器の機能向上事業、転倒骨折予防教室等)</p> <p>(2) 転倒予防のための運動の普及活動</p> <p>(3) セーフティ住宅支援事業</p> <p>6 暴力・自殺の安全</p> <p>(1) 自殺予防キャンペーン</p> <p>(2) メンタルヘルスチェックシステム運営</p> <p>(3) 自殺対策研修</p> <p>7 職場（労働）の安全</p> <p>(1) 安全衛生パトロール</p>	
--	--

<p>(2) 市内中小企業向け安全衛生研修会 (3) 体験型の労務安全衛生研修</p> <p>8 防災 現在、検討中</p> <p>(詳細は「補足資料9 対策委員会が実施するプログラム」参照)</p>	
<p>4.2 根拠に基づいた方策（戦略）を企画・実践するにあたって支援センター、認証センター及び他の学術的あるいは知識を有する組織との連絡体制を持っているか。それはどの組織か？どのような範囲においてか？注）当フォームの最後に根拠に基づいた介入に関する WHO のリンクを掲載している。</p> <p>厚木市では、根拠に基づいた方策（戦略）を企画・実践するにあたって、以下の団体と連携しています。</p> <p>1 日本 SC 推進機構 厚木市は日本 SC 推進機構と連携・協力しながら、SC 活動を推進しています。情報提供やアドバイス、また、庁内外での講演、対策委員会の運営アドバイザー等、厚木市の SC 活動全般について、支援していただいています。</p> <p>2 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 戦略的創造研究推進事業実装プロジェクトチーム 科学技術振興機構社会技術研究開発センターは、科学技術庁により設立され、少子高齢化や安全安心などの社会的課題を解決するために役立つ成果を創り出すことを目指し、研究開発・支援を行っています。 実装プロジェクトは、この社会技術研究開発センターが、社会的課題の解決に向けた研究開発成果を社会に実装する取組を支援するため、プロジェクトの公募を行い、採択されたプロジェクトチームであり、メンバーには大学教授や各種研究機関の研究者等が加わっています。 厚木市では、実装プロジェクトの協力を得て、データの分析やアンケート調査、プログラムの改善、勉強会などを実施しています。</p> <p>3 日本市民安全学会 日本市民安全学会は、市民が中心となりながらも、市民・警察・自治体が三位一体となり、市民安全学の発展・普及および研究者相互の連携・協力を図ることを目的としています。 厚木市は、市民安全学会主催の研修会や勉強会に参加し、様々な知見を得るとともに、研究者のみならず、様々な分野で活躍する学会員の方たちから助言等をいただいています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

セクションG 【指標5】	
<p>5.1 傷害予防の方策を決定するにあたって用いるデータは何か?例えば、外傷記録は病院、保健センター、歯科医院、学校、高齢者介護組織、そして警察等で記録されている。家庭調査も外傷やリスクのある環境・状況のデータ収集に活用できる。どのような方法が用いられているか?</p> <p>傷害予防の方策を決定するにあたっては、人口動態統計、警察統計、救急搬送データ、労働災害データ、災害給付制度データ、国民健康保険データ、SC アンケート調査、自転車利用アンケート調査等の各種データを収集・分析しています。</p> <p>これらのデータの分析は、主にサーベイランス委員会（実務担当）が行うとともに、研究者チームが専門的視点からアドバイスを行っています。</p> <p>(詳細は「補足資料6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録するプログラム」参照)</p>	<p>記述は十分か?</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か:</p>
<p>5.2 安全向上・傷害予防を推進するため、どのようにデータが提示されているか述べよ</p> <p>厚木市では、各種データは、所管する機関・団体が収集・集計し、セーフコミュニティ推進課を經由し外傷サーベイランス委員会に提供されます。</p> <p>(例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人口動態統計 市の情報を基に厚生労働省が集計し、毎年提供されます。 2 警察統計 警察が収集・集計し、毎年提供されます。 3 救急搬送データ 消防が収集・集計し、毎年提供されます。 <p>(詳細は「補足資料6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録するプログラム」参照)</p>	<p>記述は十分か?</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か:</p>
<p>5.3 どのように傷害の原因、リスク、ハイリスクの環境に関して記録し、その知識を活用するかを述べよ。どのように継続的な進捗を記録するか?</p> <p>厚木市における外傷データは、人口動態統計、警察統計、救急搬送データ、市民意識調査、各種アンケート調査、学校保健、国保レセプト等を、データ収集計画に基づき継続的に収集しています。</p> <p>各種団体から提供されたデータは、外傷サーベイランス委員会が分析・課題抽出を行い、各対策委員会に提供します。</p> <p>各対策委員会では、提供されたデータ等を課題の設定や、効果測定に活用します。取組の結果、事故やけがのデー</p>	<p>記述は十分か?</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か:</p>

<p>タに与えた影響や効果を、対策委員会で自己評価しています。</p> <p>また、外傷サーベイランス委員会で分析・検証した結果については、SC 推進協議会において報告され評価等を行い対策委員会の活動に反映しています。</p> <p>なお、データの分析や評価に当たっては、SC 支援センター（日本 SC 推進機構）の指導や助言を得ています。</p> <p>（詳細は「補足資料 6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録するプログラム」参照）</p>	
---	--

<p>セクション H【指標 6】</p>	
<p>6.1 プログラムからの傾向や結果を追跡するため、どのように傷害データを分析するか。何がうまく機能していて、よい結果をもたらしているか？何を継続しようと計画しているか？何を変更しなくてはならないか？</p> <p>外傷サーベイランス委員会は、各対策委員会が課題の抽出や活動の成果の測定ができるように、データの分析を行い、提供しています。</p> <p>なお、外傷サーベイランス委員会は、外傷に関わる有識者及び行政関係者で組織していることから、それぞれの知識・経験を活かし、収集可能なデータや活用可能なデータを随時検討しています。2014 年には、厚木市立病院の外来・入院の外傷データの収集・分析や市内の整形外科が実施した外傷発生状況を把握するためのアンケートの収集・分析（現在検討中）を行うなど活動を活発化しています。</p> <p>また、対策委員会では、外傷サーベイランス委員会から提供された分析結果等に基づき、予防対策を検討、実施しています。</p>	<p>用いられた方法は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>6.2 プログラム評価の結果はどのように活用されているか述べて</p> <p>厚木市では、重点課題に基づく各対策委員会の活動において、それぞれ、短期的、中期的、長期的な指標を定めています。</p> <p>短期的、中期的な評価については、各対策委員会が自己評価を行い、取組の改善に繋げています。</p> <p>また、その評価結果や長期的な指標の成果については、外傷サーベイランス委員会が検証を行い、SC 推進協議会がその結果を評価し全体的な方向性を確認しています。</p> <p>なお、検証、評価に当たっては、SC 支援センター（日本 SC 推進機構）の指導・助言を得ています。</p> <p>それに加えて、現在、データの分析結果や成果等を、広く市民に情報提供するために、広報チラシを作成している</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

ところです。

(詳細は「補足資料6 プログラムを評価する仕組み及び外傷の頻度や原因などを記録するプログラム」参照)

6.3 プログラムの結果による傷害パターン、傷害リスクに対する姿勢・行動・知識における変化を述べよ

厚木市では、各対策委員会のプログラムについては、短期的（認識や知識の変化）、中期的（態度や行動の変化）、長期的（状態や状況の変化）な指標を定め、それぞれ効果を測定しています。

なお、各指標の効果は、厚木市が認証取得した2010年から現在までの数値を記録するとともに、この結果を踏まえ、プログラムの修正などを行っています。

(例) 青色回転灯搭載車の地域パトロール

①事業内容

青色回転灯搭載車を活用して、パトロールを実施することにより、地域における犯罪抑止効果を高め、犯罪の予防及び体感治安の向上を図る。

②指標及びプログラムの効果

指標	指標内容 【測定方法】	単位	2010	2011	2012	2013	2014
活動指標	パトロール実施回数 【実績報告】	回	844	1093	1136	1221	-
認識・知識	青パトが巡回していると安心する割合 【アンケート調査】	%	68.1	65.6	-	62.2	61.7
態度・行動	青色回転灯の登録台数 【実績報告】	台	52	75	77	81	87
状況	刑法犯認知件数の推移【警察統計（厚木警察署）】	件	3,100	2,883	2,865	2,622	2,394
	上段：全体件数 下段：人口10万人対の件数	件	1,381	1,286	1,275	1,166	1,063
体感治安	安心して安全に暮らせるまちづくりに対する満足度 【市民満足度調査】	%	59.3	60.4	67.7	64.9	66

(詳細は「補足資料9 対策委員会が実施するプログラム」参照)

記述は十分か？

はい

いいえ

「いいえ」の場合、不十分な点は何か：

セクションI【指標7】	
<p>7.1 どのように国内・国外の SC ネットワークに参加し、連携しているかを述べよ</p> <p>厚木市では、国内・国外の SC ネットワークへ、積極的かつ継続的に参加してきました。 2008 年から現在まで、海外のネットワークへ 9 回、国内のネットワークへ 36 回参加しています。 (国内のネットワークは、SC 認証式典、日本 SC 推進機構が主催する会議、SC 推進自治体及び安心安全に関する団体が開催する大会等への参加) また、SC ネットワークへの参加により得た情報などを効果的に取り入れることで、一層の SC 活動の推進につなげています。 さらに、認証都市の責務として、他の自治体等の行政視察の受け入れや講演会への講師の派遣など、SC 活動の普及・拡大を図ってきました。こうした活動により、国内の SC 認証都市は 10 都市に、また、SC に取り組む都市は 15 都市を超えるなど、SC を推進する都市が急増しています。 (詳細は「補足資料 10 国内外のセーフコミュニティネットワークへの参加」参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>7.2 認証式典は、何等かの国際会議、その他国際的なセミナーやフォーラム、国内の交流と併せて行う予定か</p> <p>国内 SC 認証自治体及び認証を目指している自治体、SC に関心のある自治体等の交流の機会として、再認証式典と併せて「安心・安全フェスタ 2015 in あつぎ（日本市民安全学会第 12 回大会）」を開催する予定です。</p>	
<p>7.3 どの認証コミュニティを招待する予定か</p> <p>国内 SC 認証自治体（10 自治体）を始め認証を目指している自治体（5 自治体）、SC に関心のある自治体等を招待する予定です。（20 自治体の招待を予定）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>7.4 どの海外・国内の会議に参加してきたか</p> <p>厚木市では、認証前後を問わず、国内・国外の SC ネットワークへ積極的かつ継続的に参加してきました。 (1) 国内のネットワークへの参加 (認証式典、会議、研修会、各自治体等が開催するフォーラム 34 回) ※SC 認証審査員による現地指導及び現地審査は、他の自治体を視察することによる学習の場として捉えているため、ネットワークへの参加には含んでおりません。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

- 2008 SC・サーベイランス国際会議、日本 SP 学会第 2 回学術大会、日本市民安全学会第 5 回大会
- 2009 青森県十和田市 SC 認証式典、日本 SP 学会第 3 回学術大会、日本市民安全学会第 6 回大会
- 2010 日本 SP 学会第 4 回学術大会、日本市民安全学会第 7 回大会
- 2011 日本市民安全学会第 8 回大会、日本市民安全学会西日本地区勉強会、
全国 SC 推進自治体ネットワーク会議設立総会、日本 SP 学会第 5 回学術大会、
日本 SC 推進機構 I S S 認証センター認証記念国際シンポジウム
- 2012 長野県箕輪町 SC 認証式典、2012 市民安全・安心フォーラム in こもろ、日本市民安全学会第 10 回大会、
SC サミット in としま、第 6 回アジア地域 S C 会議、東京都豊島区 SC 認証式典、
長野県小諸市 SC 認証式典
- 2013 京都府亀岡市 SC 再認証式典、第 1 回日本 SC 定例会議、日本 SP 学会第 6 回学術大会、
長野県箕輪町 SC フォーラム 2013、大阪府松原市 SC 認証式典、日本セ SP 学会第 7 回学術大会、
福岡県久留米市 SC 認証式典
- 2014 埼玉県秩父市シンポジウム、市民安全・安心フォーラム i n かめおか 2014、
日本市民安全学会第 10 回大会、埼玉県秩父市 SC 市民フォーラム、
日本市民安全学会第 11 回大会（東日本、西日本大会）、さかえ SC フォーラム、
福島県郡山市 SC 国際認証都市シンポジウム、
- 2015 福岡県久留米市 SC フォーラム、埼玉県北本市 SC 認証式典、青森県十和田市 SC 再認証式典
- (2) 国外のネットワークへの参加
(SC 国際会議、アジア地域 S C 会議等 9 回)
- 2008 大韓民国ソウル市ソンパ区認証式典【大韓民国ソウル市】
国際ネットワークへの参加
第 17 回 SC 国際会議【ニュージーランド クライストチャーチ市】
ポスター展示
- 2009 台湾台北市ネイフ区視察【台湾台 北市】
SC の先進的な取組を視察
第 5 回アジア地域 SC 会議【中華人民共和国 北京市】
事例発表、ポスター展示

<p>第6回世界外傷予防会議【大韓民国 ソウル市】 国際ネットワークへの参加</p> <p>2010 第18回SC国際会議【大韓民国 水原市】 事例発表、ポスター展示</p> <p>2011 第20回SC国際会議【スウェーデンファールン】 ポスター展示</p> <p>2012 第6回アジア地域SC会議【日本 東京都豊島区】 事例発表、ポスター展示</p> <p>2014 第7回アジア地域SC会議【大韓民国 釜山市】 首長発表、事例発表</p> <p>(詳細は「補足資料10 国内外のセーフコミュニティネットワークへの参加」参照)</p>	
<p>7.5 どの地域のSCネットワークに加わる予定か(加わりたいか)? (アジア、ヨーロッパ、環太平洋、アフリカ、ラテンアメリカの地域ネットワークがある)</p> <p>アジア地域SCネットワークに加盟しています。</p>	<p>記述は十分か?</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か:</p>

Atsugi City

Application to become a member of the International Safe Community Network (re-designation)

Form A

Column 1	Column 2
Section A Community Overview	
<p>A.1 Briefly describe the community and its historical development</p> <p>Atsugi City is located in the center of Kanagawa Prefecture on fan-shaped topography on the right bank of the Sagami River. With the Tanzawa Mountain Range to its north-west, Atsugi is blessed with a rich natural environment.</p> <p>Over 400 years ago, this region started to flourish as a post-town and an industrial and commercial place for products. Due to its geographical advantage for a transportation hub, the region has grown into a key place to serve logistics and operational functions in Tokyo metropolitan district.</p> <p>On February 1, 1955, one town and four villages merged and became Atsugi City, with three more villages joining later. The City today continues to thrive with commercial districts, residential districts, laboratories of large companies, and universities, while excellent communities have been created and maintained based on the traditional neighborhood associations unique to Japan.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 1 Overview of Atsugi City".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>A.2 Describe the strategy, ambitions, objectives and work in the community in regard to safety. It must be a higher level of safety than average for a community in the country or region.</p> <p>Atsugi City declared the year of 2008 as the "first year of citizen cooperation" and has been promoting safe and secure city development through citizen cooperation.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

<p>The 9th Atsugi City Comprehensive Plan that provided the city development plans of Atsugi City for the period of FY2009 to FY2020 has defined "promotion of Safe Community (hereinafter referred to as the "SC")" as one of the fundamental policies, in accordance of which efforts in safe and secure city development have been made in cooperation with citizens.</p> <p>Further, after acquisition of designation as a member of Safe Communities (October 2012), the City established the "Safe Community Promotion Ordinance" that was the first in Japan, aiming to promote the city-wide SC activity in a continuous and systematic way.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 2: Establishment of Comprehensive Plan and Ordinances".)</p>	
<p>A.3 How are the mayor (or similar function of the community) and the executive committee involved? Who is chairing the cross-sector group?</p> <p>The Mayor of the City serves as the chairman of the "Atsugi City SC Steering Committee" that is the propelling organ of the SC activities organized by representatives of various groups in the City, being responsible for management and promotion of the SC activities in the City.</p> <p>Due to difference in the administrative structure from that of Europe and the U.S., there is no organization corresponding to the executive committee. The city council that represents citizens confirms the SC efforts and supports its promotion.</p> <p>Further, as the organ to manage the cross-sectoral efforts, the SC Steering Committee and the SC Promotion Division of Risk Management Dept. coordinate cross-functional collaboration and collaboration within the administration each respectively.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 3: Safe Community Promotion System".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient? Is the mayor involved?</p> <p><input type="checkbox"/> yes <input type="checkbox"/> no</p> <p>Is the executive committee involved?</p> <p><input type="checkbox"/> yes <input type="checkbox"/> no Who is chairing the cross-sectional group? <input type="checkbox"/></p>
<p>A.4 Describe the injury risk-panorama in the community.</p> <p>Based on analysis results of accident & injury data from the statistics on demographic situations, the ambulance transport data, the Kanagawa Prefecture Police statistics, the external injury surveillances, etc., the following "8 major problems" have been identified in relation to safety & security:</p>	<p>Is the risk-panorama sufficiently described?</p> <p><input type="checkbox"/> yes <input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

1. Violence and suicide

- Suicide is the highest cause of death due to external causes.

[Out of 914 deaths in total that occurred during 2006 to 2013 caused by external causes, 383 deaths were due to suicide (42% of the total).] As for causes of deaths due to external injuries by age group, suicide accounts for the highest percentage in each age group between 20 and 69 years old.

2. Safe traffic

- Although the number of traffic accidents (per 100,000 population) has decreased by 38.4% during the period from 2008 (before the start of the SC program) to 2014, the number still remains high.

[Year 2008: 778 cases => 2014: 479 cases Decrease of 38.4%]

- Ambulance transport due to a traffic accident accounts for 43.3% of all the ambulance transports due to external causes.

[Out of 14,761 persons transported by ambulance due to an external cause during the period from 2006 to 2014, 6,396 persons were traffic accident-related (43% of the total).]

3. Safe Bicycle Use

- Although the number of bicycle accidents (per 100,000 population) has decreased by 39.4% during the period from 2008 (before the start of the SC program) to 2014, the number still remains high.

[Year 2008: 180 cases => 2014: 109 cases Decrease of 39.4%]

- Bicycle accidents accounts for a high percentage of all traffic accidents

[Out of 13,886 traffic accidents that occurred during 2006 to 2014, bicycle accidents amounted to 3,148 cases (22.7% of the total).]

4. Feeling of safety and public safety

- Although the number of crime cases registered by the police (per 100,000 population) has decreased by 43.0% during the period from 2008 (before the start of the SC program) to 2014, the number still remains high compared to the national and prefectural levels.

[Year 2008: 1,866 cases => 2014: 1,063 cases Decrease of 43.0%]

- Although the anxiety for safety among citizens has been on a recovery trend, it still remains high. From a comparison between year 2009 (before acquisition of the SC designation) and 2013, the number of persons who responded "Safety has been improved" have at the same level, while "Safety has become worse" sharply decreased.

["Safety has been improved" response ratio: 10.8% in 2009 => 13.1% in 2013 Increase of 2.3%

"Safety has become worse" response ratio: 27.2% in 2009 => 15.9% in 2013 Decrease of 11.3%]

5. Safe elderly

- The City's aging rate that was 10.1% in 2000 exceeded 15.7% in 2008 and then reached 21.1% in 2014, increasing year by year.
- The number of elderly persons who were transported by ambulance due to an external cause (per 100,000 population) has increased by 13.4% during the period from 2008 (before the start of the SC program) to 2014. The percentage of elderly persons is high when compared with that of different age groups.

[1,842 persons in 2008 => 2,088 persons in 2014 Increase of 13.4%]

6. Safe children

- As for ambulance transport of children due to external causes, general injury outnumbers others for persons aged 0 to 6 years, while traffic accident outnumbers others for persons aged 7 to 19 years.

[Between 2006 and 2014, 1,213 persons out of 1,573 persons aged 0 to 6 years who were transported by ambulance were transported due to general injury (77.1% of the total), while, 2,355 persons out of 3,698 persons aged 7 to 19 years who were transported by ambulance were transported due to traffic accident (63.7% of the total)]

- The number of consultations concerning abuse of a child aged 18 years or less increased by 98.7% in 2014 when compared to 2012.

Especially, those for children from 0 to preschool age account for 70% of the total.

[Year 2012: 77 cases => 2014: 153 cases Increase of 98.7%]

<p>7. Work place (work) safety</p> <ul style="list-style-type: none"> • Although the number of accidents at work places has decreased by 17.2% during the period from 2008 (before the start of the SC program) to 2013, the number still remains high compared to the national and prefectural levels. [Year 2008: 302 cases => 2013:250 cases Decrease of17.2%] <p>8. Disaster prevention measures</p> <ul style="list-style-type: none"> • Approximately 20% of earthquakes (with a magnitude 6 or higher) in the world occur in Japan. • Occurrence probability of Tokai Earthquake (expected magnitude of 8 or higher) that may affect Atsugi City within 30 years is as high as 88%, while that of the North Tokyo Bay Earthquake (expected magnitude of 7.3) is also as high as 70%. <p>(As for details, please see "Supplement 4: Overview of External Injury Risks".)</p>	
Section B Structure of the community	
<p>B.1 Describe the demographic structure of the community</p> <p>As of January 1, 2015, Atsugi City has a population of 225,133 (117,050 males and 108,083 females) with a relatively high ratio of younger age groups compared to other cities in Kanagawa Prefecture. Although remaining almost at the same level for the past 10 years, the population has started to show a moderate decline since 2009. Atsugi City is also entering the phase of decreasing population as is seen in the Japanese society in general.</p> <p>As of 2015, the ratio of elderly people (aged 65 years and above) to the total population is 22.2% (50,056 persons), which is estimated to rise to 25.6% (58,880 persons) in 2020 along with increasing aging population.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 5: Overview of the Demographic Structure of the Community".)</p>	<p>Is the demographic structure and the different risks sufficient described?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

<p>B.2 Describe the SC/IP at present and the plans for the future.</p> <p>In the "9th Atsugi City Comprehensive Plan ~ Atsugi Vibrant Comprehensive Plan ~" that serves as the basis for city development of Atsugi, promotion of Safe Community has been defined as one of the fundamental policies for City's challenge of improving safety. It has been clearly provided in the long-term vision that the SC activity will be continuously promoted through collaboration and cooperation of concerned parties including citizens, communities, city administrations, etc.</p> <p>The "9th Atsugi City Comprehensive Plan ~ Atsugi Vibrant Comprehensive Plan ~" covers community development plans for the 12 years between 2009 and 2020.</p> <p>Further, specifically speaking, major challenges are set initiated by each Task Force Team, which implements the relevant activities by setting the short-, mid-, and long-term goals jointly with various organs concerned.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>B.3 Describe the support for sustained injury prevention of the local politicians in the community and which parts of the program have been undertaken and/or supported by the regional government?</p> <p>The Mayor of the City serves as the chairman of the "Atsugi City SC Steering Committee" to manage and promote the SC activities in the City. In addition, the City Council supports the SC activities.</p> <p>Further, persons representing Atsugi Labor Standards Inspection Office which is a national organization and persons representing Atsugi Police Department, Atsugi Health Care and Welfare Office, etc. that are under the jurisdiction of the prefectural government participate in the SC program of Atsugi City as committee members of SC Steering Committee, SC Task Force Teams, and SC Injury Surveillance Committee.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>B.4 Describe the strategic program concerning the safety promotion and injury prevention work, which has been formulated.</p> <p>Based on the "9th Atsugi City Comprehensive Plan ~ Atsugi Vibrant Comprehensive Plan ~" that is the first-tier plan for community development, in accordance with its administrative plans, the city of Atsugi has been promoting various initiatives for safety & security aiming at promotion of the SC program, improvement of life safety including traffic safety and crime</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

<p>prevention, improvement of disaster prevention power, betterment of child care environment, betterment of elderly welfare, increased welfare for disabled persons, realization of a healthy and longevity society, improvement of local communities, etc. Further, community activities are widely carried out by citizens in collaboration of the City administrations. (Crime prevention patrol, etc.)</p> <p>(As for details, please see "Supplement 2: Establishment of Comprehensive Plan and Ordinances".)</p>	
<p>B.5 Who is responsible for the management of the SP/IP program and where are they based in the local political and administrative organization?</p> <p>Person responsible: Tsuneyoshi Kobayashi, Mayor, Atsugi City</p> <p>Position: Mayor of Atsugi City (administrative and political leader) who also serves as the chairman of the Atsugi City SC Steering Committee as a cross-sectoral organization</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>B.6 Which is the lead unit for the SP/IP program?</p> <p>SC Promotion Division of Risk Management Dept., Atsugi City Office</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>B.7 Is the Safe Communities initiative a sustained program or a project?</p> <p>The Atsugi City's SC initiative is a continuing program that goes together with the fundamental policies of Atsugi City. After the SC initiative was identified in the Comprehensive Plan that provided community development plans of Atsugi City for the period of 2009 to 2020, the "Atsugi City Safe Community Promotion Ordinance" was established in 2012 in which promoting the City's SC program in a continuous way was clearly defined.</p> <p>We have been promoting the SC initiative since acquisition of designation in 2010 and will continue to promote it on a long-term basis by applying for the 2015 re-designation and further continuing to work for re-designations in every 5 years in future.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 2: Establishment of Comprehensive Plan and Ordinances".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

<p>B.8 Are the objectives decided by the local politicians covering the whole community? Which are they?</p> <p>The goals covering the whole city have been set in the "9th Atsugi City Comprehensive Plan ~ Atsugi Vibrant Comprehensive Plan ~" that is the first-tier plan started in 2009 for community development of Atsugi City.</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Goals set in the 9th Atsugi City Comprehensive Plan <ul style="list-style-type: none"> Toward realization of the future image of the City "Atsugi: Lively and Richly Creative City in Cooperative Relationship with the World", the "basic policies and city improvement goals" have been set based on which various efforts have been implemented. <<Basic policies and city improvement goals>> <ul style="list-style-type: none"> In conformity to the policy on public safety, to make efforts in developing "a city where people support each other to live in safety and good health". <<Fields and fundamental policies>> <ul style="list-style-type: none"> In efforts for safety and security, to promote Safe Community initiative to realize a safe and secure society. <p>(As for details, please see "Supplement 2: Establishment of Comprehensive Plan and Ordinances".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>B.9 Who have adopted these objectives?</p> <p>Tsuneyoshi Kobayashi, Mayor, Atsugi City</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>B.10 How are the Safe Community objectives evaluated and to whom are the results reported?</p> <p>In every aspect of safety and security measures, the statistics data, etc. are analyzed and the progress is evaluated every 5 years. In addition, while promoting the SC program, the short-, mid-, and long-term goals are set for activities of the Task Force Teams that have been established based on the priority subjects.</p> <p>The short- and mid-term goals are evaluated by each Task Force Team, while the long-term goals are subject to analysis of the Injury Surveillance Committee and then reported to the SC Steering Committee. The SC Steering Committee evaluates based on the report whether appropriate measures are in operation to address the priority subjects.</p> <p>Further, for the purpose of analysis and evaluation, guidance and advice are obtained from the SC Support Center (Japan Institute for Safe Communities: JISC).</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

<p>(As for details, please see "Supplement 6: Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries".)</p>	
<p>B.11 Are economic incentives in order to increase safety used? If yes, how are they used?</p> <p>1. During introduction of the SC program:</p> <p>As the aging rate of Atsugi City has been increasing every year due to declining birth rate and aging population, the number of external injuries among the elderly is also increasing year by year.</p> <p>Therefore, the SC program was introduced to address this problem, also in hope that an increasing burden in medical expenses and nursing-care expenses can be minimized in future.</p> <p>2. During implementation of safety improvement programs:</p> <p>Some of the programs implemented for safety improvement are partly subsidized by the City Government in order to enhance the effects.</p> <p>Example 1: With the aim to increase use of a helmet for bicycle riding by expanding the opportunity of purchasing a bicycle helmet, the City Government subsidizes a part of purchase expenses.</p> <p>Example 2: A part of the running cost such as gasoline cost that is required in patrol in a vehicle equipped with a rotating blue light is subsidized, aiming to mitigate financial burden on volunteers and to invite new volunteers.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>B.12 Are there local regulations for improved safety? If so, describe them.</p> <p>Toward realization of "an attractive local community where everyone can lead a healthy life in a safe and secure environment, the city of Atsugi enacted, as the first in Japan, the "Atsugi City Safe Community Promotion Ordinance" with the intention to promote safety and security efforts based on the SC principles.</p> <p>Further, the City have set various ordinances (regulations) for improving safety.</p>	

<p>1. "Safe Community Promotion Ordinance"</p> <p>This ordinance defines roles of citizens, duties of the City Government, and the basic plans based on the SC principles. This ordinance contributes to establishing sustainability of the SC activities in Atsugi City.2. "Safe Bicycle Use Promotion Ordinance"</p> <p>This ordinance provides basic matters regarding safe use of a bicycle including obligation of helmet wearing of babies/children for bicycle ride, etc.</p> <p>3. "Ordinance to prohibit touting in public places"</p> <p>This ordinance has been established for develop safe and secure living environments by prohibiting touting, scouting, and other similar conducts around Hon-Atsugi Station and other places.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 2: Establishment of Comprehensive Plan and Ordinances".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
Section C [Indicator 1]	
<p>1.1 Describe the cross-sector group responsible for managing, coordinating, and planning of the SP/IP program.</p> <p>As the propelling organ of the Atsugi City SC initiative, the "Atsugi City SC Steering Committee" was set up, consisting of persons representing the organs, groups, etc. working on safety and security activities (69 groups, 76 persons). The Mayor of the City serves as the chairman. Further, a Task Force Team has been set up for each priority subject, where relevant programs are planned, implemented, and evaluated (short- & mid-term goals) jointly by representatives of various organizations/groups.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 3: Safe Community Promotion System".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>1.2 Describe how the local government and the health sector are collaborating in the SC/IP work.</p> <p>The secretariat of the Atsugi City SC Steering Committee is administered by the SC Promotion Division of Risk Management Dept. and the secretariats of the Task Force Team is administered by each City Government's division concerned.</p> <p>As for the health category, Health & Medical Division, Health Promotion Division, Elderly Welfare Division, Welfare General Affairs Division, Disability Welfare Division, Division of Long-Term Care Insurance, City Hospital of Atsugi City, etc. participate as the secretariat or the committee members of each Task Force Team, performing activities such as provision of information and discussion/implementation of measures.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

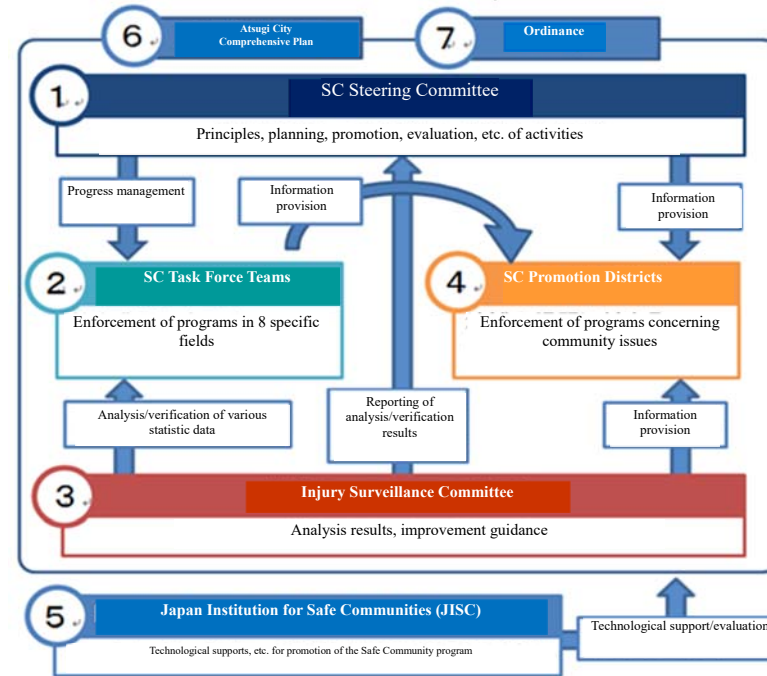
<p>Further, personnel from the Kanagawa Prefectural Atsugi Health Care and Welfare Office participate in the SC Steering Committee, Task Force Teams, and the Injury Surveillance Committee as committee members.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 3: Safe Community Promotion System".)</p>	
<p>1.3 How are NGOs Red Cross, retirement organizations, sports organizations, parent and school organizations involved in the SC/IP work?</p> <p>Atsugi City SC Steering Committee also has participants from various local NPO and NGO groups such as the neighborhood associations, medical associations, Federation of Senior Citizens' Clubs, Traffic Safety Association, Crime Prevention Guidance Liaison Committee, Chamber of Commerce, Social Welfare Association, Council of Welfare and Children's Wellbeing, and Liaison Federation of Youth Sound Growth Association.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 3: Safe Community Promotion System".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>1.4 Are there any systems for ordinary citizens to inform about risk environments and risk situations they have found in the community?</p> <p>Various organizations and groups engaged in safety and security including the City administration and Task Force Teams are working through using various media to identify and disseminate information of high-risk environment and the current state. Further, for promoting participation of citizens in SC activities, the following various SC dissemination activities are implemented:</p> <p>1. Seminars, training programs, etc.</p> <p>The high-risk groups having been identified by the City Government and the relevant activities are introduced through seminars, training programs, etc. on SC and safety and security.</p>	

<p>2. City gazette "Atsugi"</p> <p>Along with being posted on City gazette "Atsugi", SC activities, etc. are publicized.</p> <p>In specific, information about crime hazardous spots in districts/areas with a high occurrence rate and about traffic hazardous spots such as intersections with a high rate of traffic accidents are widely publicized at appropriate times.</p> <p>3. Distribution of leaflets</p> <p>Leaflets with a summary of the SC activities and with information of the high-risk groups having been identified by the City Government and the relevant activities are widely distributed to citizens.</p> <p>4. Dissemination and awareness-raising via the homepage</p> <p>Information of 1 to 3 above are posted on the Atsugi City homepage to make them widely recognized.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>1.5 Describe how the work is organized in a sustainable manner.</p> <p>The following organizations (1) to (4) have been set up and operated in accordance with the City code and, by mutually working together according to their own roles, their activities have been implemented in a functional and sustainable way.</p> <p>The organization (5) evaluates and checks the activities from outside and the (6) & (7) are schemes to ensure sustainability of the activities.</p> <p>(1) Atsugi City SC Steering Committee</p> <ul style="list-style-type: none"> • Organization to promote SC initiative • Organization consisting of 76 persons representing 69 groups <p>40 local community groups, 2 private companies, 7 medical institutions, 13 educational institutes, 9 administrative organs</p> <p>(2) SC Task Force Teams</p> <ul style="list-style-type: none"> • Organizations to discuss, implement, and evaluate the priority subjects of the City <p>(3) Surveillance Committee</p> <ul style="list-style-type: none"> • Organization to develop a surveillance scheme structure, to identify problems existing in Atsugi City, and to evaluate & verify the activities <p>(4) Safety and Security SC Promotion Districts</p> <p>Districts where safety and security efforts are carried out with a method suitable for circumstances of each district and</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

through using the SC approach

- (5) Support and external evaluation conducted by JISC on a regular basis
Guidance, advice, evaluation, etc. on the SC activities of Atsugi City are provided by the JISC (SC support center).
- (6) Inclusion in the 9th Atsugi City Comprehensive Plan
For continuance of the SC promotion system, the SC initiative has been included in the "9th Atsugi City Comprehensive Plan ~ Atsugi Vibrant Comprehensive Plan ~" that is the first-tier plan for community development.
- (7) Establishment of Atsugi City Safe Community Promotion Ordinance
With the aim to secure continuity of the SC initiative, the City established an ordinance specific to SC promotion on October 11, 2012.

(As for details, please see "Supplement 3: Safe Community Promotion System".)



Section D [Indicator 2]

2.1 Describe the sustainable work in regard to SC/IP in following areas and how the different sectors including specific NGOs are involved in the work.

- 1. Safe traffic
- 2. Safe homes and leisure times
- 3. Safe children
- 4. Safe elderly
- 5. Safe work
- 6. Violence prevention
- 7. Suicide prevention
- 8. Disaster preparedness
- 9. Safe public places
- 10. Safe hospitals
- 11. Safe sports
- 12. Safe water
- 13. Safe schools

Are some of these areas overseen by from other organizations and/or agencies than from the community?

How is the community involved?

City of Atsugi has been carrying out various safety measures.

In this regard, the City Government has played an important role by covering the majority part.

Are the descriptions sufficient?

- yes
- No..., If no!! What is missing:

On the other hand, there have been various activities carried out on a community level. Under such circumstance, introduction of the SC program accelerated collaborative efforts of various organizations across the boundaries of fields. Atsugi City has been implementing safety improvement measures and external injury prevention programs as are mentioned in 1 to 13 above.

Category		Children (No.3) (0-14 yrs. old)	Adolescents (15-24 yrs. old)	Adults (25-64 yrs. old)	Elderly (No.4) (65 yrs. old and up)
Unforeseeable cause	Home (No.2)	8	7	10	8
	School (No.5 and 13)	26	11	—	—
	Workplace/work (No.5 and 9)	—	9	9	9
	Leisure (No.2,9,11 and 12)	7	6	9	9
	Traffic (No.1 and 9)	17	16	14	10
Intentional cause	Violence/crime (No.6)	27	29	27	26
	Suicide (No.7)	5	8	8	8
Others	Disaster (No.8)	16	16	17	17

* No.10: As for the hospital safety, it is enforced by each hospital in accordance with the national safety standards.
(As for details, please see "Supplement 7: Efforts with Regard to Safety and Security".)

2.2 Describe the work with genders, all ages and all environments and situations. Describe all activities like falls prevention and how the work is done.

City of Atsugi has been working on efforts that cover genders, all ages and all environments.
(Example) Category: Home Target: Children

Are the descriptions sufficient?
 yes
 No.., If no!! What is missing:

<p>(1) "Hello Baby Project"</p> <p>[Target] Babies and parents of babies [Organizers concerned] Atsugi Medical Association, City Government</p> <p>[Objective] To prevent injury of babies</p> <p>[Details] Expert staff visit all families with a baby under 4 months old, conduct health checkup and consultation on child care and give information about child care support along with information about accidents most likely to happen with babies/accident-causing situations.</p> <p>(2) Danger prediction training</p> <p>[Target] Elementary school children, infants, parents of infants</p> <p>[Organizers concerned] Steering Committee of Children's Hall, City Government</p> <p>[Objective] To prevent injury of elementary school children and babies</p> <p>[Details] The training intends to improve children's ability to predict risks and ability to avoid risks through training of how to predict danger in daily life and activity.</p> <p>Materials used in the training are prepared especially for this purpose by Atsugi City in cooperation with expert groups on child injuries, in consideration of situations and environment surrounding children.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 7: Efforts with Regard to Safety and Security".)</p>	
Section E [Indicator 3]	
<p>3.1 Identify all high risk groups and describe what is being done to increase their safety. Groups at risk are often:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Indigenous people 2. Low-income groups 3. Minority groups within the community, including workplaces 4. Those at risk for intentional injuries, including victims of crime and self-harm 	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

5. Abused women, men and children
6. People with mental illness, developmental delays or other disabilities
7. People participating in unsafe sports and recreation settings
8. Homeless
9. People at risk for injuries from natural disasters
10. People living or working near high- risk environments (for example, a particular road or intersection, a water hazard etc.
11. People at risk due to religion, ethnicity or sexual preferences

Atsugi City identified the following high risk groups and has been taking appropriate measures:

1. Elementary & Junior High School female students with a high risk of being approached by a suspicious person
 - (1) Eyes with Love Campaign * Watch-over activity to ensure children's safety on the way to/from school
 [Organizers concerned] Community groups such as elementary school PTA, Senior Clubs, Youth Sound Growth Associations, Ward Community Center, City Government
 - (2) "Shelter Point" * Place serving as a shelter for children when encountering a potential danger by a suspicious person
 [Organizers concerned] Community groups such as elementary school PTA, Senior Clubs, Youth Sound Growth Associations, Ward Community Center, City Government
 - (3) Cell Phone SOS Net
 [Organizers concerned] Elementary school/Junior High Schools, Elementary/Junior High School PTA, Board of Education, City Government
 - (4) Providing crime prevention buzzers
 [Organizers concerned] Elementary school, Board of Education
 - (5) Danger prediction training
 [Organizers concerned] Steering Committee of Children's Hall, City Government
 - (6) ISS efforts of Shimizu Elementary School and Mutsuai-Higashi Junior High School
 [Organizers concerned] Shimizu Kids Sound Network, Pupils/students/PTA/teachers and staff members of Shimizu Elementary School and Mutsuai-Higashi Junior High School

(7) School Route Traffic Safety Measures Council

[Organizers concerned] Teachers and staff members of elementary schools, PTA of elementary schools, Board of Education, City Government

(8) Patrol in a vehicle with a rotating blue light

[Organizers concerned] Neighborhood Association, Safe City Council of each ward district, various crime-prevention groups, Ward Citizen's Center, Task Force Team, City Government

(9) Patrol around Hon-Atsugi Station

[Organizers concerned] Neighborhood Association, various crime-prevention groups, companies volunteers, school volunteers, Atsugi Police Department, City Government

(10) Street crime prevention programs

[Organizers concerned] Ward Citizen's Center, City Government

(11) Installation of security lights and increase of illumination intensity

[Organizers concerned] Residents, Neighborhood Association, Ward Citizen's Center, City Government

(12) Preparation of regional safety map

[Organizers concerned] SC promotion districts of safety and security, Neighborhood Association, City Government

2. Young people (especially high school students) having a high rate of bicycle accidents

(1) Cyclist's manners improvement campaign

[Organizers concerned] Organs/groups composing Traffic Safety Council, Kanagawa Chuo Kotsu Co., Ltd., Atsugi Police Department, City Government

(2) Safe cycling training class based on the "scared straight" educational method

[Organizers concerned] Organs/groups composing Traffic Safety Council, Atsugi Police Department, City Government

3. Male adults (aged 30 to 50 years) having a high rate of suicide deaths

(1) Mental health consultation

[Organizers concerned] City Government

(2) Suicide prevention campaign

[Organizers concerned] Task Force Team, Liaison Council for Suicide Prevention

(3) Seminar on suicide prevention measures

[Organizers concerned] District Welfare Officers, Task Force Team, City Government

(4) Mental Health System "Kokoro-no-taionkei (thermometer in mind)"

[Organizers concerned] Task Force Team, City Government

4. Elderly people having a high rate of traffic accidents

(1) Safe traffic training class for the elderly

[Organizers concerned] Atsugi City Traffic Safety Measures Council, Kanagawa Chuo Kotsu Co., Ltd., Atsugi Police Department, City Government

(2) Subsidizing a part of purchase expenses for bicycle helmet

[Organizers concerned] Elementary School PTA, Board of Education, Atsugi City Traffic Safety Leaders association, Atsugi City Mothers Committee Liaison Association for Traffic Safety, City Government

(3) Awareness raising campaign for voluntary return of driver's license

[Organizers concerned] Atsugi City Traffic Safety Measures Council, Atsugi Police Department

5. Elderly people having a high rate of tumbling injuries

(1) Improvement of locomotorium function

[Organizers concerned] Federation of Atsugi Senior Citizens' Clubs, Community General Support Center, SC Task Force Team, Volunteer, City Government

(2) Tumbling/born fracture prevention class (Care prevention program)

<p>[Organizers concerned] Federation of Atsugi Senior Citizens' Clubs, Community General Support Center, SC Task Force Team, Volunteer, City Government</p> <p>(3) Home safety support program</p> <p>[Organizers concerned] Task Force Team, Volunteer, City Government</p> <p>(4) Subsidizing a part of purchase expenses for the reduced-fare bus tickets for the elderly (Kanachan Bill)</p> <p>[Organizers concerned] Kanagawa Chuo Kotsu Co., Ltd., City Government</p> <p>(5) Dissemination and awareness-rising activity for tumbling prevention</p> <p>[Organizers concerned] Federation of Atsugi Senior Citizens' Clubs, Community General Support Center, Task Force Team, Volunteer, City Government</p> <p>(As for details, please see "Supplement 8: High Risk Groups".)</p>	
<p>3.2 Give examples of high risk environments</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe how risk environments in the community are identified 2. Describe prioritized groups and/or environments 3. Are there specific programs for their safety in the community 4. Describe the timetable of the work 5. Are these groups involved in the prevention aspect of these programs? <p>1. Based on the police statistics and results of questionnaire surveys, it was indicated that a high crime rate existed around Hon-Atsugi Station, creating anxieties about crime. Therefore, the place has been identified as the high risk environments.</p> <p>2. Citizens and users of Hon-Atsugi Station, In the vicinity of Hon-Atsugi Station</p> <p>3. Patrol around Hon-Atsugi Station [Organizers concerned] Neighborhood associations, various crime prevention groups, company & school volunteers, Atsugi Police Department, City Government</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No..., If no!! What is missing:</p>

4. Patrol around Hon-Atsugi Station is conducted, aiming to prevent occurrence of crimes in the vicinity of Hon-Atsugi Station. A cooperative system has been built by various groups to make it an effective and sustainable activity where patrol is conducted in seamless manners.

5. In addition to patrol that is conducted mainly by residents and business operators around Hon-Atsugi Station, Atsugi Police Department, organizations/citizens' groups engaged in crime prevention, and City Government carry out planning, implementation, and evaluation of measures as the organizers of patrol.

(As for details, please see "Supplement 8: High Risk Groups".)

Section F [Indicator 4]

4.1 Describe the evidence-based strategies/programs that have been implemented for different age- groups and environments.

City of Atsugi has been enforcing evidence-based strategies/programs for each age group and environment, which include:

1. Safe traffic

- (1) Safe traffic training class for the elderly
- (2) Cyclist's manners improvement campaign
- (3) Safe cycling training class based on the "scared straight" educational method
- (4) Safe traffic class
- (5) Private traffic monitoring center

2. Safe Bicycle Use

- (1) Bicycle environment improvement project
- (2) Safe traffic class
- (3) Bicycle helmet wearing campaign
- (4) Cyclist's manners improvement campaign
- (5) Safe cycling training class based on the "scared straight" educational method

Are the descriptions sufficient?
 yes
 No.., If no!! What is missing:

3. Feeling of safety and public safety

- (1) Patrol around Hon-Atsugi Station
- (2) Installation and maintenance of security lights
- (3) Community patrol in a vehicle with a rotating blue light

4. Safe children

- (1) Danger prediction training
- (2) Eyes with Love Campaign
- (3) Shelter Point
- (4) ISS efforts
- (5) Development of Child Care Concierge

5. Safe elderly

- (1) Tumbling prevention exercise campaign
(Locomotorium function improvement program, tumbling/bone fracture prevention class, etc.)
- (2) Dissemination activity for tumbling prevention exercise
- (3) Home safety support program

6. Violence and suicide prevention

- (1) Suicide prevention campaign
- (2) Operation of mental health check system
- (3) Seminar on suicide prevention measures

7. Work place (work) safety

- (1) Work place safety & health patrol
- (2) Safety & health seminar for small and medium enterprises in the City
- (3) Experience-based labor safety & health seminar

8. Disaster prevention

Currently under study

(As for details, please see "Supplement 9: Programs Implemented by Task Force Teams".)

4.2 Has any contacts been established with the ISCSC (International Safe Community Support Centres), WHO CCCSP (WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion at the Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden), other scientific institutions, or knowledgeable organizations about the development and/or implementation of evidence-based strategies? Which ones? What has been the extent of their counsel? Notice: WHO links to evidence- based interventions are found at the end of form B.

For the purpose of planning & implementation of evidence-based measures (strategies), the city of Atsugi cooperates with the following organizations:

1. Japan Institution for Safe Communities (JISC)

Atsugi City has been promoting the SC initiative in collaboration and cooperation with the Japan Institution for Safe Communities. Various supports are given to the City regarding the City's SC activities in general including provision of information & advice, lecture meetings held inside and outside the City Government, operation advisors for Task Force Teams, etc.

2. Implementation Project Team under the Solution Oriented Research for Science and Technology project (Research Institute of Science and Technology for Society of the Japan Science and Technology Agency)

The Research Institute of Science and Technology for Society of the Japan Science and Technology Agency (JST) was established by the Science and Technology Agency, which provides supports for R&D and support, aiming to produce results that can contribute to solving social problems such as aging population combined with low birthrate and safety & security-related issues.

The Implementation Project Team is a project team selected in the open recruitment held by the Research Institute of Science and Technology for Society for supporting the efforts to introduce the results of R&D to society. The members of this project team consist of university professors, researchers from various institutions, etc.

With cooperation of the Implementation Project Team, Atsugi City has been conducting data analyses, questionnaire surveys, program improvement, study meetings, etc.

3. Japan Association of Community Based Civil Safety Sciences

The objective of the Japan Association of Community Based Civil Safety Sciences is to promote citizens-initiated development/diffusion of safety science for citizens and mutual collaboration/cooperation among researchers, where

Are the descriptions sufficient?

yes

No., If no!! What is missing:

<p>citizens, the police, and the municipality work in unison.</p> <p>Atsugi City has its staff participate in seminars and study meetings held by the Japan Association of Community Based Civil Safety Sciences to obtain wide knowledge and advice, etc. from the researchers and the Association members working in various fields.</p>	
<p>Section G [Indicator 5]</p>	
<p>5.1 What local data is used to determine the injury prevention strategies? For example, registering injuries can be done at hospitals, health centers, dentists, schools, care of the elderly organizations and the local police. Household surveys can also be used for collection of data about injuries and risk environments and risk situations. Which methods are used in the community?</p> <p>In order to define measures for injury prevention, the demographic census data, the police statistics, the ambulance transport data, the industrial accident data, the disaster mutual aid benefit data, the National Health Insurance data, the SC questionnaire survey results, results of the bicycle use questionnaire survey, etc. are collected and analyzed.</p> <p>Data analysis is mainly performed by Surveillance Committee (in charge of practical operations) and the researcher team provides advice from experts' point of view.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 6: Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>5.2 Describe how data are presented in order to promote safety and prevent injuries in the community.</p> <p>In the case of Atsugi City, various data are collected/aggregated by the organizations/groups concerned and are submitted to the Injury Surveillance Committee via the Safe Community Promotion Division.</p> <p>(Example)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Demographic census data: Compiled and issued every year by the Health, Labour and Welfare Ministry based on the City's data 2. Police statistics: Collected/aggregated and provided every year by the police department 3. Ambulance transport data: Collected/aggregated and provided every year by the fire department <p>(As for details, please see "Supplement 6: Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

<p>5.3 Describe how the community documents and uses knowledge about causes of injuries, groups at risk and risky environments. How does the community document progress over time?</p> <p>Data on external injuries of Atsugi City are collected on a continuous basis according to the data collection plan, which include the demographic census data, the police statistics, the ambulance transport data, data from the citizen awareness survey, data from various questionnaire surveys, data from the school infirmary, data based on receipts of the National Health Insurance, etc.</p> <p>Data provided from various groups are analyzed to identify problems by the Injury Surveillance Committee and are provided to each Task Force Team.</p> <p>Each Task Force Team utilizes the data thus provided for setting tasks and measuring the activity outcome. Activity outcome and influences/effects of the activities on accidents/injury data are subject to self-evaluation of each Task Force Team.</p> <p>Results obtained from analysis/verification of the Injury Surveillance Committee are reported and evaluated at the SC Steering Committee and are reflected in activities of Task Force Teams.</p> <p>For the purpose of analysis and evaluation, guidance and advice are obtained from the SC Support Center (Japan Institute for Safe Communities: JISC).</p> <p>(As for details, please see "Supplement 6: Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>
<p>Section H [Indicator 6]</p>	
<p>6.1 How does your community analyze results from the injury data to track trends and results from the programs? What is working well and has given you good results? What are the plans to continue? What needs to be changed?</p> <p>Injury Surveillance Committee analyzes the data and provides the results so that each Task Force Team can identify the problem and measure the activity outcome.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No., If no!! What is missing:</p>

<p>Further, as the Injury Surveillance Committee consists of experts and administrative personnel well-versed in injury problems, the data available for collection and use are discussed as needed through the best use of their knowledge & experience. The activity was further developed in 2014 when, for example, collection/analysis of injury data of in- and out-patients at Atsugi City Hospital and collection/analysis (currently ongoing) of questionnaire survey results by the orthopedic specialists in the City to grasp injury occurrence situations have been conducted.</p> <p>Further, Task Force Team has been carrying out discussion/implementation of preventive measures based on the analysis results, etc. provided from the Injury Surveillance Committee.</p>	
<p>6.2 Describe how the results from the program evaluations are used</p> <p>With regard to the priority subjects, Atsugi City has set the short-, mid-, and long-term goals for activity of each Task Force Team.</p> <p>As for the short- and mid-term goals, each Task Force Team conducts self-evaluation to discuss improvement of the relevant activities.</p> <p>As for evaluation results and performance of the long-term goal, the Injury Surveillance Committee conducts verification and the SC Steering Committee evaluates the results to review the overall approach.</p> <p>Further, for the purpose of verification and evaluation, guidance and advice are obtained from the SC Support Center (Japan Institute for Safe Communities: JISC).</p> <p>In addition to the above, aiming to widely disseminate information, we are working to release the result of analyzed data, performance, etc. in the form of a PR leaflet.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 6: Scheme to Evaluate Programs and the Programs to Document the Frequency and the Causes of Injuries".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

6.3 Describe the changes in pattern of injuries, attitudes, behavior and knowledge of the risks for injuries as a result of the programs.

In Atsugi City, parameters for the short-term goals (change in awareness and knowledge), the mid-term goals (change in behavior and action), and the long-term goals (change in situation and environment) are set for programs of each Task Force Team and are subject to measurement.

In this respect, numerical data during the period from 2010 (when the City was designated as an International Safe Community) to the present have been recorded regarding the effects of each goal, based on which programs have been improved and modified.

(Example) Community patrol in a vehicle with a rotating blue light

(1) Details of activity

With the aim of enhancing the crime deterrent effect, preventing crimes, and raising feeling of public safety in the community, patrol has been conducted through use of a vehicle with a rotating blue light.

(2) Indicators and effects of programs

Indicator	Details of indicator [measuring method]	Unit	2010	2011	2012	2013	2014
Indicator of activity	No. of times of patrol conducted [Performance report]	No. of times	844	1093	1136	1221	-
Awareness/knowledge	Ratio of people who feel safe because blue -light patrol is conducted [Questionnaire survey]	%	68.1	65.6	-	62.2	61.7
Behavior/action	No. of registered vehicle equipped with a rotating blue light [Performance report]	Units	52	75	77	81	87
Situation	Change in the number of crime cases registered by the police [Police statistics (Atsugi Police Dept.)] Upper case: Vehicle theft Lower case: Burglary	Cases	1,295	1,072	998	941	886
		Cases	286	186	198	193	133
Feeling of public safety	Degree of satisfaction in community development for safe & secure living [Survey on citizens degree of satisfaction]	%	59.3	60.4	67.7	64.9	66

Are the descriptions sufficient?

yes

No., If no!! What is missing:

(As for details, please see "Supplement 9: Programs Implemented by Task Force Teams".)

Section I [Indicator 7]	
<p>7.1 Describe how the community has joined in and collaborates in national and international safe community networks.</p> <p>Atsugi City has been participating in domestic and overseas SC networks in a proactive and continuous manner.</p> <p>The number of times of participation during the period from 2008 to the present totaled 9 in the overseas networks and 36 in the domestic networks.</p> <p>(The participations in the domestic networks include those in Safe Community designation ceremonies, meetings held by the JISC, conventions held by municipalities promoting SC and organizations engaged in safety & security, etc.)</p> <p>We have been promoting our SC initiative by effectively using information, etc. that are obtained through participation in the SC networks.</p> <p>Further, as a duty of a designated city, we have been making efforts to diffuse and expand the SC program by receiving personnel for observation from other municipalities and dispatching lecturers to meetings, etc. Through these activities, the number of cities promoting the SC program has rapidly increased to 15 cities currently working on the SC program including 10 already designated.</p> <p>(As for details, please see "Supplement 10 Participation in Domestic & Overseas Safe Community Networks".)</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>7-2 Will the designation ceremony coincide with any international conference, seminar or other forms of international or national exchange?</p> <p>As an opportunity to meet and exchange views for domestic municipalities that have been designated as Safe Communities, that are now working on the SC program, that are interested in the SC program, etc., the City plans to hold "2015 Safety and Security Festa in Atsugi (the 12th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science) concurrently with the re-designation ceremony.</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>
<p>7.3 Which already designated Safe Communities will be invited for the designation ceremony?</p> <p>The SC designated cities in Japan (10 municipalities), cities now working toward designation (5 municipalities), and other municipalities interested in SC are planned to be invited (in total 20 municipalities).</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>

7.4 Which international conferences and national Safe Community conferences has the municipality participated in?

City of Atsugi, both before and after being designated as a Safe Community, has been participating in the domestic and overseas SC networks in a proactive and continuous manner.

(1) Participation in domestic networks:

(Participated 34 times in the designation ceremonies, meetings, workshops, and forums held by municipalities)

* On-site guidance and on-site evaluation by the SC certifiers are not included in network participation, as visiting other municipalities are regarded as an occasion of learning.

2008 International Conference on Surveillance for Safe Community, the 2nd Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, the 5th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science

2009 Towada City Safe Community Designation Ceremony (Aomori Prefecture), the 3rd Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, the 6th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science

2010 The 4th Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, the 7th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science

2011 The 8th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science, Study meeting of the Japan Association of Community Based Civil Safety Science: West Japan, Inaugural meeting of the National SC Promotion Municipality Network, the 5th Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, JISC Anniversary Symposium and ISS Certify Center Designation Ceremony

2012 Minowa Town SC Designation Ceremony (Nagano Prefecture), "2012 Safety and Security Forum in Komoro", the 10th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science, SC Summit in Toshima, the 6th Asia Region SC Conference, Toshima-Ward SC Designation Ceremony (Tokyo), Komoro City SC Designation Ceremony (Nagano Prefecture)

2013 Kameoka City SC Re-designation Ceremony (Kyoto Prefecture), the 1st Japan SC Regular Conference, the

Are the descriptions sufficient?

yes

No., If no!! What is missing:

<p>6th Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, "2013 Minowa Town SC Forum (Nagano Prefecture)", Matsubara City SC Designation Ceremony (Osaka Prefecture), the 7th Academic Conference of the Japanese Society of Safety Promotion, Kurume City SC Designation Ceremony (Fukuoka Prefecture)</p> <p>2014 Chichibu City Symposium (Saitama Prefecture), "2014 Safety Forum in Kameoka", the 10th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science, Chichibu City SC Citizens Forum (Saitama Prefecture), the 11th Convention of Japan Association of Community Based Civil Safety Science (East Japan/West Japan Convention), Sakae SC Forum, Koriyama City SC International Designated City Symposium (Fukushima Prefecture)</p> <p>2015 Kurume City SC Forum (Fukuoka Prefecture), Kitamoto City SC Designation Ceremony (Saitama Prefecture), Towada City SC Re-designation Ceremony (Aomori Prefecture)</p>	
<p>(2) Participation in overseas networks</p>	
<p>(Participated 9 times in the SC International Conference, the Asia Region SC Conference, etc.)</p>	
<p>2008 Songpa District Designation Ceremony [Seoul City, Korea] Participation in the international network The 17th SC International Conference [Christchurch, New Zealand] Poster display</p>	
<p>2009 Visited Neihu District of Taipei [Taipei City, Taiwan] Paid a visit to view the progressive approach for the Safe Community project The 5th Asia Region SC Conference [Beijing, China] Presentation on the SC case study, poster display The 6th World Congress on Injury Prevention and Control [Seoul City, Korea] Participation in the international network</p>	
<p>2010 The 18th SC International Conference [Suwon City, Korea] Presentation on the SC case study, poster display</p>	

<p>2011 The 20th SC International Conference [Falun, Sweden] Poster display</p> <p>2012 The 6th Asia Region SC Conference [Toshima Ward, Tokyo, Japan] Presentation on the SC case study, poster display</p> <p>2014 The 7th Asia Region SC Conference [Busan City, Korea] Presentation by the Mayor, presentation on the SC case study</p> <p>(As for details, please see "Supplement 10 Participation in Domestic & Overseas Safe Community Networks".)</p>	
<p>7.5 In which Regional Network for Safe Communities is the community a member or planning to seek membership? (Asian, European, Pan-Pacific, African or Latin-American Regional Network for Safe Communities)</p> <p>The City is a member of the Asia Region SC Network</p>	<p>Are the descriptions sufficient?</p> <p><input type="checkbox"/> yes</p> <p><input type="checkbox"/> No.., If no!! What is missing:</p>